信頼の力を未来へ

jicpa

日本公認会計士協会

FOR OUR FUTURE

CPAという言葉を知っていますか？

CPAという力

会計のスペシャリストとして、
企業等の公正な経済活動・社会の健全な発展に
重要な役割を担う専門家、それがCPAです。
著しく変化する現代社会にあって、
その高い専門的能力へのニーズはますます拡大しています。
監査・税務・コンサルティングの基本業務のみならず、国内外のM&A、
株式公開支援業務などに加えて組織内会計士として、
幅広い分野で活躍が期待されています。
CPAの力が、ビジネスの、経済の、そして社会そのものを動かす力になる。
限りなく広がる可能性と夢を手に入れる選択がここにあります。

Certified Public Accountants　公認会計士

CPAという未来

IT化や経済のグローバル化・ボーダレス化が進むにしたがい、
CPAの高い専門知識と分析力、判断力へのニーズは一層高まっています。
活躍する場も企業にとどまらず、各省庁をはじめ地方公共団体、
独立行政法人など、社会を動かす中核で、広がり続けています。
自分のスキル、自分の経験、自分の先を読む力が、社会を変える力になる。
CPAには未来を動かす力があります。

監 査
CPAだけに認められた業務で、企業等の決算書が正しく作成されているかなどについて、第三者の立場からチェックします。大きく、法律などに基づく監査、任意監査、国際的な監査があり、透明性のある社会・経済を築くために非常に重要な仕事です。

税 務
CPAは税理士登録すれば税理士になることができます。企業・個人の税務書類の作成や税務相談、また国際税務など幅広い知識を活かして、指導やアドバイスを行います。

コンサルティング
経営戦略の立案から組織再編、情報システムの構築、事業再生計画の策定、株式公開に関するトータルサポートなど経営全般にわたる指導やアドバイスを行います。まさに企業を動かす力になる仕事です。

公認会計士法第１条に「公認会計士の使命」が規定されています。

公認会計士は、
監査及び会計の専門家として、
独立した立場において、
財務書類その他の財務に関する
情報の信頼性を確保することにより、
会社等の公正な事業活動、
投資者及び債権者の保護等を図り、
もつて国民経済の健全な発展に
寄与することを使命とする。

その力を、
社会の力にしているCPAが、
います。

Voices of CPA

CPAだから広がるその未来を、
既に第一線で活躍している
スペシャリストの仕事から見てみましょう。

監 査
Audit

経済・企業活動のグローバル化に伴い、国際財務報告基準(IFRS)や国際監査基準(ISA)など、会計・監査の基準も国際化が進んでいます。企業がそれに対応していくには、公認会計士の指導やアドバイスが欠かせません。

現在、監査業務に従事しています。担当しているのは、自動車部品会社や不動産投資法人、ホテル業などで、多種多様な経歴を持つチームメンバーと協力し合い、監査意見の表明という明確なゴールに向かって日々、作業を進めています。

監査業務の魅力は、多様な関係者とコミュニケーションを図れることにあります。監査の過程で、経営層や経理部門はもちろん、営業、人事、法務など様々な部門の方と話す機会があり、いろいろな考え方に触れられるのは実に貴重な経験です。各人の思いや考え方を理解した上で、監査人という立場から会社の期待に応えていくことを心がけています。

監査で大切なのは、その会社のビジネスを深く理解することだと思います。そうした理解があってこそ、監査上のリスクを把握し、効果的かつ効率的な監査を行えるからです。ビジネスを取り巻く環境は日々、急速に変化しています。そうした変化に対応するため、日頃から業界動向をチェックし、知識をアップデートするのは大変ですが、大きなやり甲斐も感じています。

会社のグローバル化や会計・監査基準の国際化に対応していくためには、公認会計士自身が会社の成長に貢献するという意識を持ち、学び続けることが大切です。プロフェッショナルとしての誇りを持って、価値の高いサービスを提供し、多くの方から信頼される公認会計士になりたいと思っています。

針谷(はりがい) 隆(たかし) さん

青山学院大学経営学部卒業
14年監査法人入所
監査事業部で監査業務に従事

**「監査業務の魅力は、
多種多様な考え方に触れられること。
大切なのは、会社のビジネスを深く理解し、
その成長に貢献するという意識」**

株式公開支援
Initial Public Offering

株式公開に向けてスケジュールを立て、証券会社なども交えて必要な準備や手続を進める支援を行います。経営管理体制を上場企業で必要とされる基準や水準に改善していくためのアシストやアドバイスも求められます。

「大企業も初めはスタートアップ企業であって、株式公開を経て、今の日本経済を支える企業にまで成長しています。今後の日本経済を支える企業を輩出していく支援ができるということは、社会的役割期待の大きい業務だと思います」

石川(いしかわ) 資樹(もとき) さん

慶応義塾大学環境情報学部卒業
05年監査法人入所
監査事業部で上場会社の監査業務を経て
株式公開支援業務を担当

マネージャーから上場会社の監査業務に加えて、株式公開を目指す会社の監査を担当するようになり、現在はパートナーとして株式公開支援業務の管轄をしています。

上場会社の監査と異なり、税務ベースで行われている会計処理を会計基準に従った処理にするアドバイス、内部統制の整備・運用についてアドバイスをするといった業務も多くなりますが、金融商品取引法・会社法の監査現場で経験を積み、多くの会社のあるべき形を学んできたからこそ、的確なアドバイスができると思います。

株式公開を目指す会社には、社長や社員の年齢が比較的若いベンチャー企業が多く、上場という一つの目標に向かって一緒に頑張ろうという意識が自然と湧いてきます。経営者からの直接の相談も多く、経営者と同じ目線を持ってビジネス戦略やビジネスリスクを考え、アドバイスできるのは、公認会計士の魅力であり、やり甲斐だと思います。

次々と新しい技術、革新的な新製品や商品、サービス、ビジネスモデルが生まれており、これからもそれらをマネタイズした会社が多く出てくると思います。そのような会社がどのようなビジネス戦略で成長していくかを間近で感じることができ、その支援ができるということは、公認会計士として大きな糧になりますし、今後も多くの企業を支援していきたいと思います。

ビジネスアドバイザリー
Business Advisory

クライアントが直面する課題やニーズに対して、解決策を提案・実行していくのがアドバイザリー業務です。プロジェクトごとに状況が異なるため、業種や業務に応じた専門知識と創造力が求められます。

主にガバナンス関係のアドバイザリーとして、規程やマニュアル関係の整備運用支援に携わっています。以前は製造業を中心に監査業務に従事していましたが、監査をしていく中で、「クライアントの業務や資料の品質を満たすと同時に、その効率化も図れるのでは」と考えるようになり、監査では対応できない領域を経験するためにアドバイザリー部門へ異動しました。

規程やマニュアル整備においては、監査業務で学んだ「ガバナンス上あるべき枠組みは何か」を念頭に置き、「クライアントの要求事項および実態」を調査した上で、どのような枠組みであれば必要な条件を満たせ、かつ実現可能かを、クライアントやチームメンバーと繰り返し協議する作業が求められます。昨今、ガバナンスへの注目が高まっている状況において、クライアントと実務運用まで見据えた最善のガバナンスを整備していく業務は、私自身にとっても貴重な経験となっています。

DX（デジタルトランスフォーメーション）やSX（サステナビリティトランスフォーメーション）などビジネスが目まぐるしく変容していく中、会計処理のみならず、ガバナンス対応や情報開示、社内教育など、あらゆる場面で公認会計士の必要性が増しているのを感じます。ビジネスや新技術への感度を高め、常にクライアントの一歩先を見据えて価値のあるサービスを提供し、より多くの方から信頼を得られるプロフェッショナルになりたいと思います。

笹原（ささはら） 瞬（しゅん） さん

北海道大学会計専門職大学院修了
17年監査法人入所
監査事業部を経て、20年からアドバイザリー業務に従事

独立開業
Entrepreneur as Professional Accountant

独立開業した公認会計士には、多様な業種・規模の中小企業などから経営管理、会計、税務、内部統制などにおいて、良きアドバイザー、パートナーとしてのサポートが求められています。

小駒（こごま） 望（のぞみ） さん

中央大学商学部卒業
06年監査法人入所
投資ファンド運営会社、会計事務所を経て、
10年会計士事務所を設立

公認会計士の魅力は、資格に基づいて自分の名前で仕事を受託し、サービスを提供できることだと思います。企業の命運を決める場面もあり、責任は重いですが、その分やり甲斐もあります。私自身、監査業務からバイアウトファンド、会計業務を経て独立開業しましたが、今後また組織に属することも可能と考えています。業務や働き方の選択肢の幅が非常に広く、大きな可能性を手にできる資格です。

個人事務所では現在、法人と個人に対する税務・会計支援をメインに、保証業務や事業譲渡・合併のアドバイザリー、株価算定や事業計画作成支援などのコンサルティング業務を行っています。個人として上場・非上場会社の社外役員にも従事しています。携わる業務の中で、自分がクライアントや社会の役に立っていると実感できる場面が多くあり、充実感をもって毎日を過ごしています。また、独立後は時間等の様々な資源を自分の裁量で決定することが可能になり、仕事とプライベートのバランスが取りやすくなりました。

独立後に2人の子供を出産しました。産休・育休の取得はありませんでしたが、出産に向けて事前に業務の調整を行うことができましたし、大半の業務は在宅でも対応可能なこともあり、繁忙期も大きな混乱なく過ごすことができました。

出産や育児については社会における理解やサポート意識の高まりを感じますし、クライアントや周りの方々に支えていただいていることに感謝しています。

仕事もプライベートも一層の充実を目指し、引き続き取り組んでいきたいと思います。

海外駐在
Overseas Assignment

企業のグローバル化に伴い、企業の海外進出や会計の国際化が進んでいます。それに対応するために、海外勤務経験があり、世界で通用する専門性と柔軟性を持ち合わせた公認会計士が求められています。

グローバルに事業を展開する大企業の会計監査を担当する中で、経営課題の的確な理解・議論・解決には、海外駐在の経験が不可欠だと考えるに至りました。そこで、入社6年目の2016年9月から2年間、オランダに赴任しました。

現地では、日系企業の会計監査だけでなく、経営者からの相談に応じたり、セミナーを開催したりして、幅広く日系企業をサポートしました。日系企業が相手とはいえ、上司や同僚はほぼ全員外国人です。魅力的なサービスを提供するには、優れたチームワークが重要であり、チームワークを向上させるには、異文化の深い理解や発信力、コーディネーション力といった様々なスキルが求められます。赴任当初は、物事がうまく進まないことも多々ありましたが、経験を積み重ねるうちに次第に要領を得て、最終的には日系企業の経営者から感謝の言葉をいただけるサービスを提供できるまでになりました。この充実した2年間は、その後の大きな自信につながっています。

監査法人勤務でも、公認会計士には数年ごとにステップアップの機会があり、環境の変化や業務の多様性は非常に刺激的です。私自身、オランダでの海外駐在を通じて、幅広い価値観を養うことができました。この経験を活かして、グローバルな視点からの知見・専門性・洞察をさらに深め、グローバルに活躍する日本企業を支えていきたいと考えています。

三輪（みわ） 篤史（あつし） さん

京都大学経済学部卒業
10年監査法人入所
監査部門を経て、16年から2年間オランダのグループファームに出向
18年に監査部門に帰任、20年よりAsia Pacific関連業務を兼務

「グローバルに活躍する日本企業を支えるには自分自身にもグローバルな視点や経験が必要。海外駐在で身に付けた価値観やスキルは自分の大きな自信にもつながる」

組織内会計士
Professional Accountant in Business

企業や官公庁など、公認会計士の専門的な知識・経験・判断力が必要とされる場面は増える一方です。IPOやM&A、資金調達など企業の経営に近い部門で、又はCFOとしての活躍に期待が寄せられています。

「女性特有のキャリア中断があっても仕事を続けられる。柔軟な働き方を可能とするこの資格の強みを実感しています」

石川（いしかわ） 景子（けいこ） さん

横浜国立大学経済学部卒業
14年監査法人入所
21年から大手予備校講師
（公認会計士講座の財務理論科目担当）

大手予備校にて公認会計士講座の講師をしています。公認会計士試験の合格後に入所した大手監査法人で監査業務を経験後、夫の海外駐在に帯同しました。駐在中は四半期の決算時期ごとに一時帰国をして監査法人で非常勤として勤務し、妊娠・出産後は子育ての日々を送っていました。4年間の海外生活を終えて日本に戻ってからは、予備校講師という新たな分野で働くことを決めました。自分が受験生のとき、予備校のある先生との出会いが合格につながったこともあり、私も未来の公認会計士の輩出に携わりたいと思ったためです。

予備校講師の仕事は、講義や質問対応、テストや模試の作問・校閲・採点が中心です。公認会計士試験では膨大な量の知識が必要になるので、勉強の計画や方法、メンタルの維持が非常に重要です。まだまだ駆け出しですが、受験生に単に知識を伝えるだけでなく、モチベーションの維持を含めた総合的な相談サポートのできる講師になりたいと思っています。

昨年に第3子を出産して育休を取得しましたが、現在は時短勤務の正社員として勤務しています。海外駐在への帯同や女性特有のキャリア中断があっても、自身の状況に合わせて柔軟に仕事が続けられるのは、公認会計士という資格があったからこそであり、この資格の強みとありがたみを改めて感じています。

試験制度

どうすればCPAになれますか?

CPAの資格は、国家試験に合格し、2年間の業務補助等と実務補習で所定の単位を取得し、修了考査を経た後に初めて与えられます。道のりは決して容易いものではありませんが、CPAの社会的責任とステイタスはそれだけ高いと言えます。

公認会計士試験実施スケジュール

公認会計士試験は、金融庁の公認会計士・監査審査会が実施しています。
試験日程やインターネット出願については、公認会計士・監査審査会
ウェブサイトをご覧ください。

(https://www.fsa.go.jp/cpaaob/index.html)

公認会計士試験 ※2022年4月時点

公認会計士登録までの流れ→

出願 ▶ **短答式試験(4科目)** 合格者免除者 ▶ **論文式試験(5科目)** 合格者免除者 ▶ **実務補習**(必須単位) / **日本公認会計士協会による修了考査** / **業務補助等**(2年以上)(※試験合格の前後は問わない) **登録** **CPA** 公認会計士

短答式試験科目

科目名	配点	試験時間	問題数	出題範囲の要旨
財務会計論	200点満点	120分	40問以内	簿記、財務諸表論、その他企業等の外部の利害関係者の経済的意思決定に役立つ情報を提供することを目的とする会計の理論
管理会計論	100点満点	60分	20問以内	原価計算(材料、仕掛品及び製品等の棚卸資産評価並びに製品に関する売上原価の計算)と管理会計(会計情報等を利用して行う意思決定及び業績管理)
監査論	100点満点	60分	20問以内	公認会計士又は監査法人による財務諸表監査、中間監査、四半期レビュー及び内部統制監査の理論、制度及び実務
企業法	100点満点	60分	20問以内	会社法、商法(海商並びに手形及び小切手に関する部分を除く)、金融商品取引法(企業内容等の開示に関する部分に限る)などの法律

※年2回実施
※短答式試験合格者は、翌年及び翌々年の2年間、短答式試験の免除を受けることができます

論文式試験科目

科目名	配点	試験時間	問題数	出題範囲の要旨
会計学	300点満点	300分	「大問」5問	財務会計論及び管理会計論
監査論	100点満点	120分	「大問」2問	短答式試験科目に同じ
企業法	100点満点	120分	「大問」2問	短答式試験科目に同じ
租税法	100点満点	120分	「大問」2問	租税法総論と租税実体法(法人税法、所得税法、消費税法など)、また必要に応じ、これらに関連する租税特別措置法、並びに法令の解釈・適用に関する実務上の取り扱い
経営学*	100点満点	120分	「大問」2問	経営管理と財務管理
経済学*				ミクロ経済学とマクロ経済学
民法*				民法第1編[総則]、同第2編[物権]、同第3編[債権]並びに関連する特別法
統計学*				記述統計、確率、推測統計、相関・回帰分析の基礎

※年1回実施　*印は、4科目中1科目選択

公認会計士試験合格者に聞いたCPAを目指した理由と合格までの道のりは ▸▸▸ P.11 Road to CPA

合格者データ

公認会計士試験合格率

年	願書提出者数 (A)	論文式受験者数 (B)	合格者数 (C)	合格率（%）	
				(C) / (A)	(C) / (B)
2018	11,742	3,678	1,305（266）	11.1	35.5
2019	12,532	3,792	1,337（315）	10.7	35.3
2020	13,231	3,719	1,335（328）	10.1	35.9
2021	14,192	3,992	1,360（297）	9.6	34.1

※願書提出者数は、第Ⅰ回短答式試験及び第Ⅱ回短答式試験のいずれにも願書を提出した受験者を名寄せして集計したもの
※合格者数の（ ）の数値は、合格者数に含まれる女性合格者の人数

女性の合格者数は増加傾向にあり、女性の活躍フィールドも広がっています。

2021年 年齢別合格者割合

20歳以上25歳未満の割合が最も多く、20歳代の合格者は8割を超えています。合格者の平均年齢は24.5歳、最高年齢は60歳、最低年齢は19歳です。

2021年 学歴別合格者割合

大学在学、大学卒業の合計割合が8割を超えています。大学在学中の合格者は、大学卒業後に公認会計士として働き始めるのが一般的です。

2021年 職業別合格者割合

試験勉強に多くの時間を割くことができる学生、専修学校・各種学校受講生の合格者が7割近く、社会人の合格者は1割以上となっています。

※構成比の合計は端数処理の関係で100%にならない場合があります

実務補習生の就職・内定状況

	2019年度（2019年12月時点）		2020年度（2019年12月時点）		2021年度（2020年12月時点）	
	回答数	比率（%）	回答数	比率（%）	回答数	比率（%）
監査法人等	1,240	94.2	1,227	92.7	1,280	94.8
一般会社等	55	4.2	71	5.4	58	4.3
計	1,295	98.4	1,298	98.1	1,338	99.1

提供：一般財団法人会計教育研修機構

資本市場における公認会計士の需要の高まりにより、公認会計士の就職状況は非常に好調です！

FAQ
about CPA

CPAについての
素朴な疑問から、
仕事の内容、
将来性に関することまで、
みんなが知りたい
「？」にアンサー。

試験について
about CPA Examination

公認会計士試験は、在籍する学部による有利不利はありますか。

経済学部、商学部、経営学部といった学部の合格者が比較的多いですが、昨今は、法学部や理数系学部の合格者も増えており、様々な学部の出身者が合格しています。学部による有利不利はあまりないと言えるでしょう。

CPAの業務に英語やITスキルは必要ですか。

米国や他の外国のCPAの資格を取得しても、日本のCPAの資格が与えられる訳ではなく、日本での監査の責任者となることはできません。

会計専門職大学院を卒業した場合、試験の一部科目免除などはありますか。

公認会計士試験短答式試験の「財務会計論」、「管理会計論」、「監査論」が免除になります。

公認会計士試験と税理士試験を同時に受験できますか。

試験は日程が別々なので両方受験できますが、同時に合格することは容易ではありません。CPAは税理士登録すれば税理士になることができます。加えて、行政書士登録をすれば行政書士になることもできますし、不動産鑑定士試験において一部の受験科目が免除になります。このようにメリットが大きいので、公認会計士試験に絞って挑戦してはどうでしょう。

CPAの業務は大都市圏にしかありませんか。

大都市圏に限らず、全国で業務を行うチャンスがあります。監査法人は全国各地に事務所があり、地元企業に監査やコンサルティング、IPOなどのサービスを提供しています。個人で開業する場合は、税務業務が主となる場合が多いようです。また、全国各地の企業や地方公共団体等において、専門的知識を活かした組織内会計士として活躍することもできます。

仕事について
about CPA Work

将来について
about CPA Prospect

企業活動のグローバル化に伴い、CPAの業務範囲も世界規模に広がっています。また現在のビジネス環境においては、ある程度のITスキルは必要であり、これはCPAも同様です。そのため、英語やITのスキルを有するに越したことはありませんが、公認会計士試験合格後に勉強しても十分間に合います。

米国CPAの資格を取得すれば、日本でもCPAとして働けますか。

AI（人工知能）は監査の仕事にどのような影響がありますか？

AIを活用することによって、より高度なデータ解析などを実施できるようになるため、AIの活用による監査業務の品質向上と効率化の両立が今後の課題になると考えられます。AIを有効に活用することによって、監査人は、経営者等とのコミュニケーション、専門家としての判断等に注力できるようになると思われ、監査の品質と効率性を高めることが期待されます。

CPAの有する知識、能力は経済社会にとって必要不可欠なものなので、会計・監査及び経営に関する専門的知識や経験を活かし、会計事務所や監査法人だけでなく、「組織内会計士」として多種多様な企業及び組織の一員として活躍しています。例えば、一般企業（金融機関、証券会社、商社、製造業等）、コンサルティング会社、官公庁や教育機関で活躍している人や、財務捜査官として経済犯罪の捜査にあたっている人もいます。

CPAの勤務先は、会計事務所や監査法人以外にどのような場がありますか。

仕事上で男性が区別されることはありませんので、能力が十分発揮できるのではないでしょうか。女性のCPAも増えており、毎年、公認会計士試験合格者の約2割が女性です。多くの監査法人には、産休制度や育児休暇制度が整備されています。また復職後には短期間労働制を選択することも可能です。このような制度を利用しながら仕事を続けている女性CPAは多くいます。個人事務所を開業すれば自分のペースで仕事を行うことも可能です。

女性が活躍しやすいというのは、本当でしょうか。

個人差もあるので期間の特定はできません。CPAの資格取得後早ければ3年程度で独立する人もいます。

独立するまでにどれくらいの期間が必要ですか。

資格自体に定年はありませんが、監査法人等では規定されている場合が多いようです。残業、転勤等も就業形態によります。監査法人勤務の場合は一般企業と似た面がありますが、独立開業の場合は自由業と同様です。本人次第で様々な選択ができます。

CPAに定年はありますか？また、残業や転勤はどうでしょうか。

海外勤務することはできますか。

日本のCPAの資格や語学力を活かして、海外の会計事務所やグローバル企業などで勤務することも可能です。監査法人の場合、海外の会計事務所と提携し、世界の主要都市に駐在員を派遣している場合が多いです。

Road to CPA

公認会計士試験合格者に聞いた、CPAを目指した理由と合格までの道のり

浅田明子（あさだ あきこ）さん
合格時 27歳
卒業後合格

「勉強が作業にならないように、目的を意識することが肝心。つらいときも自分を信じて着実に進めば、合格につながる」

公認会計士を目指したきっかけは、志望していた営業職ではなく財務・経理課へ配属され、知識の不足を感じて会計の勉強を始めたことです。簿記２級、１級と勉強を進めるうち、仕事の幅を広げられる強みをもちたいと思うようになり、公認会計士を目指そうと決心しました。

働きながらの受験勉強だったため、短時間で効率的に進めることを重視。教材は手を広げず、過去のミスや注意点をテキストに一元化して、何度も読み返すことを中心に勉強を進めました。特に心がけたのは、勉強が作業になってしまう瞬間を作らないこと。同じ「テキストを読む」でも、短答式試験の前は引っかけになりそうな単語を意識しながら、論文式試験の前は覚えるべき単語を意識しながらと、目的に合わせた形で取り組みました。自分なりに最大限の集中力で勉強を進められ、短答・論文式ともに１回で合格することができました。

公認会計士の魅力はキャリアの幅が広く、さまざまな形で社会に必要とされることだと思います。まずは監査の経験や知識を身に付け、多様な人とのつながりを大切にして、クライアントに寄り添える会計士として活躍したいです。

試験勉強中につらいな、大変だなと思ったときは、周りと比べず、まずは勉強を続けている自分を盛大にほめてください。その上で、自分に対して批判的になったりおごったりせずに、作戦を立てる。どんなときも自分を信じて着実に進めば、合格につながるはずです。

「優秀な人と自分を比べず、平均点を超えることに集中。苦労して目指す価値は十分にあるので、迷わず合格を目指して！」

中村亮介（なかむら りょうすけ）さん
合格時 21歳
大学在学中合格

将来に備えて、大学生の間に何か価値のあることを成し遂げたいと思っていたところ、公認会計士について知り、その仕事内容や経済社会での役割、監査が独占業務であることなどに魅力を感じて、受験を決意しました。

試験勉強中は、最も大切なのはメンタルの管理だと考え、学習計画は容易に達成できるものにしました。達成できなかったと後悔する回数より、目標の上を行っているという自己満足感を得られる回数が多くなるからです。また、周囲の優秀な人や努力家の人を比較対象にすると必要以上にプレッシャーがかかってしまうため、あくまでも平均点を超えることだけに集中していました。ただし、人と話すと刺激をもらえ、悩みを共有してストレスを発散できるので、予備校仲間とは適度なコミュニケーションを取ったほうがいいと思います。序盤から中盤までは、どうすれば「効果的かつ効率的」に学習できるかばかりを考えていました。結果的に無駄になった時間もありますが、そうした過程を経て確立した学習方法だからこそ自信も持てましたし、予備校のカリキュラムどおりに短答・論文式試験を1回で合格できたのも、そのおかげだと思っています。

公認会計士には、多業種へ関与できる、選択肢や活躍の場が多いといった魅力があります。私が目指しているのは、スタートアップ企業が市場で活躍できるようサポートできる公認会計士です。苦労して目指す価値は十分にある資格ですから、迷わずに合格を目指してください。

金森千聖（かなもり ちさと）さん
合格時 21歳
大学在学中合格

「絶対に合格するという強い気持ちで臨みましょう！合格の先には、多彩なキャリアが開かれます」

「監査は公認会計士にしかできない正義を貫く仕事です」。公認会計士に憧れたのは、この一言がきっかけでした。当時高校１年生の私は、社会や人の役に立つ職業に就きたいと考えていて、それを叶えるために公認会計士を目指そうと決心しました。また、簿記の勉強を楽しいと思えたことも、その後押しとなりました。

大学と予備校のダブルスクールで勉強を進めましたが、今思い返すと量より質を重視した勉強法でした。１回目の短答式試験に落ちて、時間も精神的余裕もない中で２回目の短答式試験、そして論文式試験に一発で合格できたのは、同じテキストを何度も繰り返して基礎を重視し、どんなに些細なことも理解できるまで友人や先生に聞いたからだと思います。また、「絶対に大学３年生で合格して残りの大学生活を謳歌する」「一緒に勉強している友人と共に合格する」という強い気持ちで勉強に臨んだことも、合格を勝ち得た一因だと思います。

公認会計士の魅力は、仕事の幅や選択肢が広がるため、自分が興味を持つ仕事を生業にできる点や、ゼネラリストにもスペシャリストにもなれる点です。さまざまな仕事にチャレンジする中で、公認会計士かつ私にしかできない仕事を見つけ、公認会計士に魅せられた素敵な同志を増やしていくのが今の目標です。合格の先には、あなたに合う多彩なキャリアが開かれます。日々の積み重ねを大切に、強い気持ちをもって合格を目指してください！

Information from JICPA

アニメブック

解説動画
「公認会計士のしごととAI」

Vision for the future
舞台は世界｜グローバルに活躍する
「会計プロフェッション」たち

日本公認会計士協会ウェブサイト
「広報ツールライブラリー」ページで
ご覧いただけます。

信頼の力を未来へ
jicpa
日本公認会計士協会

日本公認会計士協会
https://jicpa.or.jp/

jicpa_kouhou
https://twitter.com/

JICPA.Kouhou
https://www.facebook.com/

日本公認会計士協会
所在地

〒102-8264
東京都千代田区九段南4-4-1
公認会計士会館
TEL（03）3515-1120

- 都営新宿線　市ケ谷駅
- 東京メトロ有楽町線・南北線　市ケ谷駅
- JR 中央線・総武線　市ケ谷駅

信頼の力を未来へ

jicpa

日本公認会計士協会

2022年6月発行
©The Japanese Institute of Certified Public Accountants
本編の内容を無断で転載することを禁じます。